

内モンゴル芸術学院における モンゴル伝統音楽の学習が 民族アイデンティティ形成に与える影響

—モンゴル民歌伝承クラスに着目して—

アルサラン
(2019年10月3日受理)

Mongolian Traditional Music Learning Influences on the Formation of Ethnic Identities:
Folk Songs Education at the Inner Mongolia Academy of Arts

Aersileng

Abstract: The present state of traditional Mongol folk-music classes at the Inner Mongolian Academy of the Arts is explored and the influence on Mongolian students' sense of ethnic identity is considered from the study of traditional Mongolian music. As a result of these considerations and analysis of the curriculum, four new required courses have been introduced, which deal with the history of Mongolian folk music and provide a general theory of Mongolian traditional music. These new classes have become important constituents of the educational curriculum dealing with the transmission of ethnic musical traditions. Interviews and questionnaires have shown that the students' awareness of their ethnic identity has been strengthened through the transmission of traditional music.

Key words: Inner Mongolia Arts University, Traditional Music, Folklore, Ethnic Identity, Curriculum

キーワード：内モンゴル芸術学院，伝統音楽，伝承，民族アイデンティティ，カリキュラム

1. はじめに

中国は、漢民族と55の少数民族を有する多民族国家である。55の少数民族の合計は、中国総人口の9%に過ぎない。内モンゴル自治区は中国の北部に位置し、面積が118万平方キロ、人口は約2,505万人である。そのうちモンゴル族はおよそ420万人であり、内モンゴ

ル総人口の17%を占めている。長期にわたる民族の混雑、文化の混雑、言語の混雑、文字の混雑など複雑な環境において、内モンゴル自治区全体に漢化が進み、モンゴル文化、教育の発展をはじめ、モンゴル民族アイデンティティの保持に大きな影響を与えている。

中国では、2004年にユネスコの無形文化遺産保護条約を締結して以来、無形文化遺産の保護と伝承の活動が盛んに行われている。中華人民共和国国務院(2015)は「民族教育を発展させることに関する決定」¹⁾を発行し、中華文化を継承すること、また少数民族の優秀な伝統文化も継承すること、それらを発展させることを重視し、そして、中国の優秀な伝統文化を小中学

本論文は、課程博士候補論文を構成する論文の一部として、以下の審査委員により審査を受けた。

審査委員：三村真弓（主任指導教員）、小川佳万、
枝川一也、伊藤 真

校の教材と授業に融合させ、民族地区の学校で民族の優秀な伝統文化の伝承活動を展開させると強調した。また、大学、専門学校を支援し、文化機関との協力を強化し、民族の優秀な文化を専門課程に加え、教育と研究を展開し、無形文化遺産の保護と伝承を図ることを主張した。

これらの無形文化遺産の保護と伝承活動の様々な取り組みの進展とともに、「内モンゴル芸術学院におけるモンゴル伝統音楽の伝承クラス」に関する研究がいくつつか出されている。

薩日娜・烏雲塔娜（2011）は、内モンゴル芸術学院は「民族芸術の人材育成と芸術研究の基地になる」ことを目的にしていると述べ、特にオルティン・ドー、ホーミー、モンゴル箏、モリンホール（馬頭琴）、四胡、三弦などのモンゴル音楽の専門コースが設置され、すでにシステム化されていることを取り上げた。また、国家レベル無形文化遺産伝承人であるイダンジャブ、バダマ、メデグラを招き、四胡、オルティン・ドー、モリンホール（馬頭琴）の教室を開き、伝承を行っていることを報告している²⁾。姜曉芳（2015）は、内モンゴル芸術学院に国家レベルや自治区レベルの無形文化遺産の代表的伝承者を招き、モンゴル伝統音楽の伝承を行うことの重要性を述べ、2009年から始まった「ホーミー専門コース」、「チョール教室」、「アラシャ民歌教室」、「ホルチン民歌教室」などを取り上げ、紹介している。そして、内モンゴル芸術学院でモンゴル音楽専門コースや養成教室を開講することによって、モンゴル伝統音楽の伝承、保護、発展に貢献できると主張した³⁾。

ただし、これらの内モンゴル芸術学院におけるモンゴル音楽の伝承に関する研究は「○○伝承クラスを設置して、民族音楽の伝承を行っている」などの状況を説明するにとどまっている。

本研究の目的は、内モンゴル芸術学院モンゴル民歌伝承クラスに関するデータを基に、モンゴル民歌伝承クラスの実態を明らかにし、さらにモンゴル伝統音楽の学習がモンゴル人の学生たちの民族アイデンティティ形成に与える影響を考察することである。

2. 中華人民共和国建国（1949年）以降の内モンゴル自治区におけるモンゴル音楽教育事業の発展経緯

内モンゴル芸術学院におけるモンゴル伝統音楽クラスに関する研究をするにあたり、中華人民共和国建国（1949年）以降の内モンゴル自治区の音楽教育事業の発展経緯について述べる必要がある。ここで、

袁炳昌・馮光鈺（2007）編『中国少数民族音楽史（第一巻）』に依拠しながら、中華人民共和国建国以降の内モンゴル自治区における音楽教育事業の発展経緯を簡単に述べる。

中華人民共和国建国以来、内モンゴル自治区の音楽教育事業は発展してきている。1954年に内モンゴル師範学院が芸術学部音楽分野を創立し、1982年に独立した音楽学部を設置し、モンゴル言語クラスを設け、モンゴル民族学校の小中学校の音楽教師を養成し、民族音楽教育の充実と向上に重要な役割を果たした。そして、1957年に内モンゴル芸術学校が設立された。これは、自治区初の総合中等芸術学校であった。30年間の教育経験を重ねて、1988年に内モンゴル芸術学校は内モンゴル大学芸術学院と昇格し、音楽部、舞蹈部、美術部を設け、内モンゴル地区の高等芸術教育事業を推進した。1970年代末に、内モンゴル自治区のジリム盟、フルンボイル盟、オランハダ盟において、次々と芸術学校が設立され、芸術教育事業をさらに推進させた⁴⁾。しかし、1966～1976年の10年間に於いて、中国国内で行われた文化大革命の影響で学校教育が停止となり、多くのモンゴル歴史や文化、音楽などに関する資料が焼却されてしまった。

3. モンゴル伝統音楽の概要と現状

モンゴル民族の伝統音楽には、オルティン・ドー（長調民歌）、ボギンドー（短調民歌）、ホーミー、モリンホール（馬頭琴）、四胡、チョール、トブシュールなどさまざまな種類がある。モンゴル伝統音楽のほとんどが、遊牧生活およびそれに適した社会生活、宗教、歴史、思想、膨大な草原、モンゴルゲル（モンゴル伝統移住式テント）、生活習慣、家畜などを源にして生まれた。その特徴として、歌詞内容や文芸技法、音楽表現などのほとんどがモンゴル遊牧文化と密接に結びついている。例えば、モンゴル民歌の歌詞には、（草原・家族・恋人・友人・家畜）への愛、（歴史・民族・文化・チンギスハン）への誇り、（英雄・故郷・草原）への賛美、（宴会・結婚式など）へ祝福、（自然・青空・大地）への感謝などがあげられる。また、モンゴル草原に吹く風の音、川の流れ、羊や牛の声などをイメージさせるホーミー、馬をイメージして作ったモリンホール（馬頭琴）、ゆったりとした遊牧生活を連想させるオルティン・ドーなどが代表的である。長期にわたり、モンゴル伝統音楽は、その音楽が生まれた地域を中心に伝承されてきた。

しかし、テレビや映画やカラオケなどが娯楽の主流になっている現代社会では、人々の楽しみ方は大きく

変わった。生活環境の急激な変化につれ、モンゴル民族を代表する伝統文化遺産はますます大きな打撃を受け、失われつつある。20世紀末からモンゴル伝統音楽は衰え続け、多くの伝統音楽が伝承されなくなった。その外部要因は、主に流行音楽の影響である。改革開放以来、中国と世界各国の交流が日々頻繁になり、国内外各種の流行音楽が中国国内で大幅に拡がり、若者たちの間で大ブームを起こした。特に新世紀に入ってから、「超級女生」、「快樂男生」、「中国好声音」、「中国好歌曲」、「我是歌手」などの各種の音楽番組は、流行音楽の発展を推進した。このような流行音楽の普及は伝統音楽の発展を大きく阻害している。

4. 調査概要

4.1 内モンゴル芸術学院音楽学部の概況

内モンゴル大学芸術学院は、2015年8月に国家教育部の認可を得て、自治区唯一の独立した芸術高等教育機関としての内モンゴル芸術学院となった。学院には現在5000人近くの学生がおり、音楽学部、舞踊学部、映像演劇学部、美術学部、デザイン学部、新メディア学部、文化芸術管理学部、思想政治と公共教育学部の8つの学部、1つの付属中等芸術学校がある⁵⁾。

音楽学部は、音楽表演（演奏）、音楽学、作曲および作曲技術理論と大きく3つの分野に分けられ、声楽歌劇、民族声楽、民族器楽、管弦楽（吹奏楽）、音楽学、ピアノ、作曲の7つの専攻から設置されている。学部在学学生数は現時点（2019年6月）では839人である。西洋音楽、器楽専門および作曲、理論などの音楽の専門コースだけでなく、オルティン・ドー（長歌）、モリンホール（馬頭琴）、ホーミー、四胡などのモンゴル民族音楽の専門コースも設置されており、民族音楽の継承、発揚を重要な課題としている。内モンゴル芸術学院には、2011年から、国家レベル及び自治区レベルのモンゴル音楽伝承人を招き、民族の伝統音楽遺産の伝承と学校教育を融合した専門コース「民歌伝承クラス」を開設した。また2016年に、世界で活躍する著名なモンゴル伝統音楽グループである Anda Union のメンバーたちを招き「Anda 伝承クラス」を設立し、2018年に「ウランムチ（烏蘭牧騎）伝承クラス」を設置し、「放牧地→市場→国際的な幅広い活動をできる」というチームの育成を目指している⁶⁾。

4.2 モンゴル民歌伝承クラスを選定した理由

2016年から新しく増設した「Anda 伝承クラス」と「ウランムチ（烏蘭牧騎）伝承クラス」は、教育課程などの面でいまだに不完全である。これに比べて、モ

ンゴル民歌伝承クラスは、専門コースとして、教育課程がシステム化されている。したがって本研究では、民歌伝承クラスを対象にすることとした。また、当学院の教員の W 氏を通じて、モンゴル民歌伝承クラスの教員及び学生にインタビュー調査やアンケート調査を行うことが可能であることも選定した理由の1つである。

4.3 調査方法

①モンゴル民歌伝承クラスの実態と教育課程の分析
各民歌伝承クラスの実技担当の教員について情報収集を行い、さらに入手した資料に基づいて、教育課程の構成を分析する。

②モンゴル伝統音楽の伝承と民族アイデンティティの関連性の検討

○内モンゴル芸術学院民歌伝承クラスの実技担当の教員 T 氏と Anda 伝承クラスの実技担当の教員 W 氏にインタビュー調査（2019年6月27日）を実施した。質問項目は以下の通りである。

- a. 教員にとってモンゴル伝統音楽はどのような意味があるのか。
- b. モンゴル民族音楽史、モンゴル民族伝統音楽概論の学習が、学生の実技の学習とモンゴル文化、歴史などの理解にどの程度の成果があるのか、音楽に対する価値観が変わったか、民族意識にどの程度変化が生じたのか。

○モンゴル民歌伝承クラスの学生を含みモンゴル伝統音楽を専攻としている学生全員を対象として、ウェブアンケート調査（2019年9月3日～12日）を実施した。質問項目は以下の通りである。

- a. 学生の属性（出身地、専攻など）
- b. 設問部分
 - ・モンゴル伝統音楽及びモンゴル文化、歴史の理解について
 - ・モンゴル伝統音楽とモンゴル文化、歴史の関連性について
 - ・履修科目（モンゴル民族音楽史、モンゴル民族伝統音楽概論など）とモンゴル伝統音楽およびモンゴル文化、歴史の関連性について
 - ・モンゴル文化、モンゴル伝統音楽の伝承者としての認識について

4.4 調査結果

内モンゴル芸術学院は、2011年から、従来の音楽学専攻に「モンゴル民歌伝承クラス」を加えた。これによって、ホルチン民歌伝承クラス（2011年）⁷⁾、アラシャ民歌伝承クラス（2012年）⁸⁾、シリゴロ民歌伝承クラス

(2014年)⁹⁾、オルドス民歌伝承クラス(2015年)¹⁰⁾、フルンボイル民歌伝承クラス(2016年)¹¹⁾という内モンゴル自治区の5つの地域特徴を持つモンゴル民歌伝承クラスが設置された。そして、毎年大学入学試験を通して学生を募集しており、集まるのは主に内モンゴル自治区各地域からのモンゴル族の学生である。

4.4.1 各伝承クラスの実技担当教員の概要

①ホルチン民歌伝承クラス客員教授

ウランジュ (1938年生まれ)

蒙古族、著名な民族音楽研究者、中国国家レベル無形文化遺産伝承人(ホルチン民歌歌手)。

②アラシャ民歌伝承クラス客員教授

バダマ (1940年生まれ)

蒙古族、アラシャ地域を代表するオルティン・ドーの歌手、中国国家レベル無形文化遺産伝承人。

③シリゴロ民歌伝承クラス客員教授

ジャガドスロン (1954年生まれ)

蒙古族、内モンゴル歌舞団オルティン・ドーの歌手、中国国家レベル無形文化遺産伝承人。

④オルドス民歌伝承クラス客員教授

ジンファ (1943年生まれ)

蒙古族、オルドス民歌歌手、オルドス歌舞団の元団長。

⑤フルンボイル民歌伝承クラスの客員教授

チチゲマ (1975年生まれ)

蒙古族、フルンボイル民歌伝承人、世界的に活躍するモンゴル伝統音楽グループ「Anda」のボーカルを務めている。

4.4.2 モンゴル民歌伝承クラスの教育課程の構成

モンゴル民歌伝承クラスの教育課程の分析は、2018年6月に改訂した内モンゴル芸術学院音楽部の教育課程に基づいて行った。

(1) モンゴル民歌伝承クラスの人材育成目的

人材育成目的は、4年間を通して、音楽学の基礎知識、音楽の理論的分析や研究に関する基礎能力を育成し、市民文化活動センター、小中学校、社会音楽団体、科学研究部門と出版部門などにおいて、民族音楽理論や音楽教育理論の指導、伝承、伝播、演奏、研究、編集、評価を行うことができ、広く活動できる人材を育成することである。

目的の内容から見れば、音楽学専攻の立場から民族音楽理論と音楽教育理論を指導できる人材を育成することを最優先していることが分かる。

(2) 教育科目の構成

モンゴル民歌伝承クラスの卒業要件として、必修科

目153単位と選択科目18単位を合わせて、計171単位以上が要求されている。カリキュラムが4年(8学期)、1学期が16週という構成になっている。モンゴル民歌伝承クラスの卒業生は表1に示す知識と能力を獲得すべきとされている。

表1 モンゴル民歌伝承クラスの習得内容

a. 音楽史、民族音楽学、音楽基礎理論知識の習得
b. 音楽学の分析方法と研究方法の習得
c. モンゴル民歌の歌唱法の習得
d. 伝承、演奏、科学研究、応用など多重能力の習得
e. 国家と党の文芸方針、政策と法規の習得
f. 基礎的な科学能力と実践能力を有し、一定の批判的思考を育成

*内モンゴル芸術学院(2018)「音楽学院教育カリキュラム」p.9から引用

【必修科目】

専攻実技においては、学生と教員の一对一によるレッスンが設置されている。また、専攻実技と同等に必修科目である専門課程、基礎専門関連課程と教育実践課程が設置されており、各学科共通の一般教養課程も設置されている。学業成果の評価としては、各学期に期末試験を行う。

【選択科目】

選択科目には、専門科目と一般教養科目が設置されていて、要件として計18単位を取得とされている。しかし、選択科目はカリキュラム上で詳細に掲載されていない。

必修科目(2018改訂版)は、表2の通りである。

各学科共通の一般教養課程では、中国政治教育の科目がおおよそ半分を占めており、モンゴル文化、歴史、言語などの科目が設置されていない。専門課程科目と基礎専門関連課程科目の構成において、モンゴル民族音楽史、モンゴル民族伝統音楽概論、器楽概論、民歌旋律形態研究の4つの科目が新しく設置された。これらが、モンゴル民歌の伝承において、実技と同様に重要な科目である。特に、モンゴル民族音楽史では、13世紀初期から現在に至るまでのモンゴル音楽の発展経緯と特徴などを各時代、社会背景をもとに述べている。モンゴル民族伝統音楽概論では、モンゴルの代表的民歌176曲が作られた背景から旋律、歌詞までを詳細に述べている。

4.4.3 モンゴル伝統音楽の伝承と民族アイデンティティの関連性

モンゴル伝統音楽の伝承と民族アイデンティティの

表2 必修科目（*は新しく加えた科目）

専門課程	基礎専門関連課程	教育実践課程	一般教養課程
・「実技」 ・「ソルフェージュ」 ・「楽理」 ・「ピアノ」 * 「モンゴル民族音楽史」 ・「音楽学概論」 ・「民族音楽技能」	・「和声」 ・「曲式及び作品分析」 * 「器楽概論」 * 「民歌旋律形態研究」 ・「中国音楽史」 ・「西洋音楽史」 ・「中国伝統音楽概論」 *モンゴル民族伝統音楽概論	・「芸術実践及び実践観察(調査)」 ・「卒業論文」	・「思想道德修養及び法律基礎」 ・「中国近現代史綱要」 ・「マルクス主義基本原理概論」 ・「毛沢東思想と中国特色社会主義理論体系概論」 ・「マルクス主義民族理論及び民族政策」 ・「形姿及び政策」 ・「語学(中国語)」 ・「外国語」 ・「芸術概論」 ・「体育」 ・「生涯計画及び就職指導」 ・「創業基礎」 ・「第二課程(自由活動)」
計58単位	計32単位	計5単位	計58単位

表3 教員を対象としたインタビュー調査結果

質問	回答
ア、先生にとってモンゴル伝統音楽はどのような意味があるのか。	・モンゴル伝統音楽とは、モンゴル遊牧生活および遊牧民の思想、知恵の表現形式である。 ・モンゴル伝統音楽にモンゴル文化の答えがある。
イ、モンゴル民族音楽史、モンゴル民族伝統音楽概論の学習が、学生の実技の学習とモンゴル文化、歴史などの理解にどの程度の成果があるのか、音楽に対する価値観が変わったか、民族意識にどの程度変化が生じたのか。	・民族の文化、歴史をより深く理解することができ、民族意識も高まってきている、これによって、より有効的な学習ができています。 ・伝統音楽と文化、歴史の関連を強く感じるようになっていきました。 ・実技だけでなく、関連知識の重要性を意識するようになった。 ・伝承クラスの設置により、学生たちのモンゴル民族音楽に対する認知と認識が大きく変わってきた。 ・ほかの地域の民歌を学習することによって、その地域の文化、習慣などへの理解が高まってきました。 ・民族意識が高まってきた。例えば、プライベートでもモンゴル民族衣装を着ている学生が増えている、モンゴル人同士で会話する際中国語が混ざらないように気を付けるなど。

関連性について、調査方法②に基づいて調査を行った。その結果は以下である。

【教員を対象としたインタビュー調査の結果】

内モンゴル芸術学院民歌伝承クラスの教員 T 氏と Anda 伝承クラスの教員 W 氏にインタビューを行った。内容をまとめたものが表3である。

教員に行ったインタビュー調査の結果から、伝統音楽の実技、モンゴル民族音楽史、モンゴル民族伝統音楽概論が、学生たちの民族文化、歴史の理解に大きな役割を果たしていることが分かる。表3にあるように、ほかの地域の民歌を学習することで、その地域の生活環境、習慣を理解することを通して、伝統音楽と民族文化及び民族歴史の関連性を感じ取るのだろう。また、プライベートでモンゴル民族衣装を着る学生の増加と、中国語が混同せずに純モンゴル語で会話することを心掛けていることから、民族認識が高まってきたことが分かる。

【学生を対象としたアンケート調査の分析】

今回モンゴル民歌伝承クラスの学生を含み、モンゴル伝統音楽を専攻としているすべての学生（約150名）を対象にアンケート調査を行い、103名から回答を得た。

①学生の属性から見るモンゴル伝統音楽と民族文化の関連性

生まれ育った環境が文化の伝承に大きく関わることから、モンゴル伝統音楽を学ぶ学生たちの出身地域及び専攻を把握し、モンゴル伝統音楽の割合を分析することにした。地域と専攻の割合を分析することからモンゴル伝統音楽とモンゴル民族文化の関連性を検討することを試した。そのため、学生たちに、「出身地」、「専攻」という2つの項目について質問した。

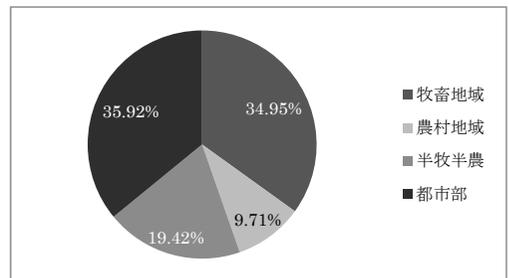


図1 モンゴル伝統音楽専攻学生の出身地の割合

図1を見て分かるように、「牧畜地域」が34.95%、「農村地域」が9.71%、「半牧半農地域」が19.42%、「都市部」が35.92%占めている。ここから、モンゴル伝統音楽を専攻している学生たちの多くが牧畜地域と都市部出身であることが分かる。モンゴル伝統音楽のほとんどが、遊牧生活およびそれに適した社会生活を源にして作られ、牧畜地域を中心に保たれているため、牧畜地域出身の学生たちが農村地域と半牧半農地域出身の学生に比べて、伝統文化と伝統音楽との触れ合いが遥かに多く、その影響で伝統音楽に興味を持つようになったのだろう。また、人口が密集し、経済的に発展して、交通が便利な都心部において、モンゴル伝統音楽のイベントや公演などが多く開催されることや、音楽教室などが数多く開かれていることが都心部出身の学生たちに子どもの頃からモンゴル伝統音楽に触れ合える機会を提供していると考えられる。

図2を見て分かるように、モリンホール（馬頭琴）が22%、ホーミーが21.36%、オルティン・ドー（長調民歌）とボギン・ドー（短調民歌）がそれぞれ11%を占め、その他が残りの34.64%を占めている（四胡、トブシュール、ヤトガ、ウリゲル・ホリボ、ホビス、チョール、民族音楽理論、三弦が同程度の割合であった）。

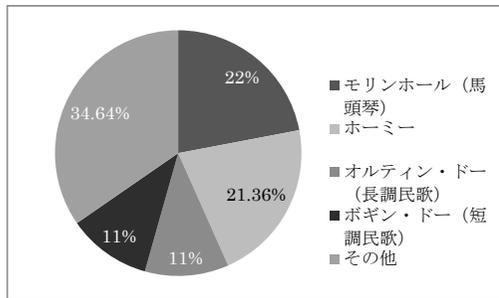


図2 モンゴル伝統音楽専攻学生の専攻の割合

ここから見れば、数多くの種類が存在するモンゴル伝統音楽の中で、モリンホール（馬頭琴）、ホーミーとモンゴル民歌（オルティン・ドーとボギン・ドー）を専攻とする学生が多いことが明らかになった。その原因として、モリンホール（馬頭琴）、ホーミーとモンゴル民歌（特にオルティン・ドー）がモンゴル文化の代表として知られていることと、近年における無形文化遺産活動の普及に伴い、モリンホール（馬頭琴）、ホーミーとモンゴル民歌（特にオルティン・ドー）の人気度が上がったことであると考えられる。また、進学率、就職率もほかの専攻より高いなどのメリットがあることが考えられる。これに伴い、多くのモンゴル

人の学生がモンゴル伝統音楽の学習を通じて民族文化、歴史をより深く理解し、民族文化の宣伝、保護および伝承に貢献できるだろう。

また、学生たちが校外外のモンゴル伝統音楽の出演や交流会などに出演しているかについて調査したところ、約60%の学生がモンゴル伝統音楽の公演や交流会などに出演していることが明らかになった。

②教育課程と民族文化、歴史の関連性

必修科目であるモンゴル民族音楽史、モンゴル民族伝統音楽概論が、モンゴル民族文化と歴史の理解に有効であるかを検討するため、「モンゴル民族音楽史が文化と歴史の理解にどの程度役立っているか」、「モンゴル民族伝統音楽概論が文化と歴史の理解にどの程度役立っているか」という2つの項目について質問した。

図3、図4を見て分かるように、モンゴル民族音楽史科目において、非常に役立つが61.17%、やや役立つが28.16%を占めている。モンゴル民族伝統音楽概論科目において、非常に役立つが61.17%、やや役立つが25.24%を占めている。このデータから見れば、

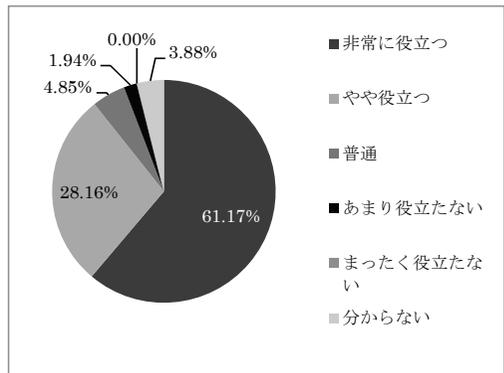


図3 モンゴル民族音楽史の有効性に対する回答

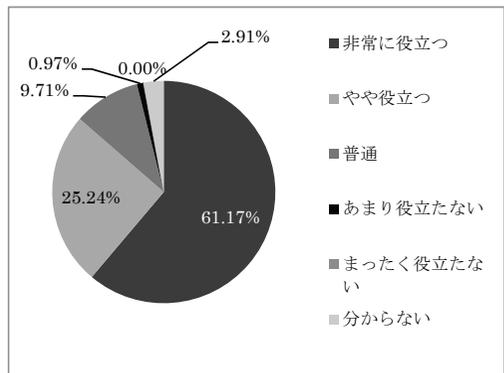


図4 モンゴル民族伝統音楽概論の有効性に対する回答

少数の学生を除けば、ほとんどの学生がモンゴル民族音楽史、モンゴル民族伝統音楽概論の学習が民族文化、歴史の理解に必要であると認識していることが分かる。

③文化の伝承者としての認識について

学生自身がモンゴル文化の伝承者としてどの程度の認識があるかを検討するため、「モンゴル伝統音楽の保護と伝承のため貢献するか」という質問に対して、「貢献する、貢献しない、考えたことがない」のいずれかを回答させた。また、「貢献する、貢献しない」を回答した学生にはその理由を記述させた。

計103名の回答の中、貢献すると答えた学生が91名(88.35%)、考えたことがないという答えが11名(10.68%)、貢献しないという答えが1名(0.97%)であった。回答の割合から見れば、貢献すると答えた学生が圧倒的に多いことが明らかである。

「貢献しない」を選んだ学生1名がその理由をはっきり記述しなかったため、「貢献する」と答えた学生

から得られたデータに基づいて分析を行った。得られた回答を表4にまとめた。

表4にあるように、モンゴル伝統音楽の保護と伝承のために貢献する理由として、自民族愛と誇り、民族文化への責任感、民族文化の伝播という3つのキーワードでまとめることができた。その内、自民族愛と誇りが重点とされた回答が比較的多かった。また、「伝統音楽が民族文化の重要な部分であるため、音楽を通して民族文化を守りたい、モンゴル伝統文化をモンゴルの次世代に残してあげることが大事」というような伝承者らしい答えも少なくはない。これを見れば、モンゴル民族伝統音楽の学習を通じて、民族伝統音楽、あるいは民族文化への関心に大きな変化が生じていることが分かる。

5. 総括

本研究では、まずモンゴル民歌伝承クラスの教育課程を分析した結果、以下が明らかとなった。内モンゴル芸術学院のモンゴル民歌伝承クラスの教育課程の人材育成目的から見ると、音楽学の方面から「理論的」な人材を育成することが強調されていることが分かる。一方、モンゴル民歌伝承クラスとして最も重視されるべきである各地域民歌の特徴を持った高度な歌唱法の習得は、人材育成目的に含まれていない。

また、モンゴル民歌伝承クラスの教育課程の構成において、中国政治教育の科目がおよそ半分を占めており、中国の学校教育の中では中国人としてのアイデンティティの育成が最も重要な課題とされていることを示している。

さらに、モンゴル民歌伝承クラスの必修科目の専門課程や基礎専門関連課程の科目に新しく設置されたモンゴル民族音楽史、モンゴル民族伝統音楽概論、器楽概論、民歌旋律形態研究の4つの科目がモンゴル民歌伝承クラスの教育課程の特徴であり、それらはモンゴル伝統音楽の学習に非常に重要な科目であると言える。例えば、モンゴル民族音楽史では、13世紀初期から現在に至るまでのモンゴル音楽の発展経緯と特徴などを各時代、社会背景をもとに述べている。モンゴル民族伝統音楽概論では、モンゴルの代表的民歌176曲が作られた背景から旋律、歌詞までを詳細に述べている。これが、モンゴル民歌の学習だけでなく、モンゴルの歴史や文化の学習の理解にも大きな役割を果たすと考えられる。この新しく設置された4つの科目の学習と伝統音楽の実技の伝承は、学生たちのモンゴル民族アイデンティティの育成に少なからず貢献するものであろう。

表4 貢献する理由

a. 自民族愛と誇り
・モンゴル人だから。
・モンゴル民族を愛しているから。
・モンゴル文化を愛しているから。
・モンゴル人として誇りに思うから。
・モンゴル伝統音楽が大好き。
b. 民族文化への責任感
・モンゴル人だから民族のため貢献するのが当たり前である。
・民族文化のため貢献するのが我々モンゴル人の責任である。
・民族文化のため貢献するのが我々モンゴル人の義務である。
・モンゴル伝統音楽の発展のため貢献するのが自分の使命である。
・何らかの方法で民族に貢献したいと思っている。
・モンゴル伝統文化を守ることが重要である。
・民族の音楽を発揚させることが大事である。
・モンゴル伝統文化をモンゴルの次世代に残してあげることが大事である。
・伝統音楽が民族文化の重要な部分であるため、音楽を通して民族文化を守りたい。
c. 民族文化の伝播
・モンゴル文化、モンゴル音楽を世界に広げたい。
・たくさんの人にモンゴル伝統音楽の魅力を知ってもらいたい。

以上のことを検証するため、モンゴル伝統音楽クラスの実技担当の教員とモンゴル伝統音楽専攻の学生たちにインタビュー調査やアンケート調査を行った結果、以下が明らかとなった。

教員へのインタビューから、学生たちがモンゴル伝統音楽の学習を通して、内モンゴル自治区のそれぞれの地域の異なった文化、生活環境、習慣への理解を高めていることが分かる。これによって、モンゴル伝統音楽と民族文化及び民族歴史の関連性を感じ取るだろう。また、モンゴル文化、歴史に関する理解が深まることにより、自民族への愛と責任感が形成されたことが、プライベートでモンゴル民族衣装を着る学生や中国語を混同せずに純モンゴル語で会話することを心掛けている学生が増えたことから明らかとなった。このような民族の文化、歴史をより深く理解することによって、モンゴル民族としての民族意識が高まり、これに伴って、学生たちはより有効的な学習ができるだろう。

学生に実施したアンケート調査から、モンゴル伝統音楽を専攻としている学生の多くは、伝統生活や文化が維持されている牧畜地域と、人口が密集し経済的に発展している都心部出身であることが明らかになった。また、モンゴル文化の代表として知られているモリンホール（馬頭琴）、ホーミー、モンゴル民歌（特にオルティン・ドー）を多く専攻している学生たちは、校内外のモンゴル民族伝統音楽の公演や交流会などに出演しており、それによって、モンゴル文化の宣伝、普及に一定の役割を果たしているといえるだろう。

中国では、小学校から大学までの学校教育における教育科目に、中国史と世界史が設置されている。少数民族の学校教育で学ぶ歴史科目の内容は、中国史と世界史をその少数民族の言語で訳したものである。そのため、内モンゴル自治区のモンゴル人の学生たちが、学校教育においてモンゴルの歴史について学べるのが世界史の中に書かれているモンゴル帝国についてのわずかの何頁しかない。アンケート調査の分析から、モンゴル民族音楽史、モンゴル民族伝統音楽概論の科目が学生たちのモンゴル文化と歴史への理解に少なからず役立つことが分かる。そして、自民族の文化と歴史への理解が高まることに伴い、学生たちの民族意識も高まるだろう。

文化の伝承者としての認識についての調査では、ほとんどの学生がモンゴル文化、伝統音楽の保護と伝承のため貢献するという意思を示し、モンゴル民族としての自慢、誇りを挙げた回答が多かった。このようなモンゴル民族とモンゴル文化を誇りに思うという熱意が、民族伝統音楽、あるいは民族文化への関心に大き

な影響を与え、モンゴル伝統音楽をはじめ、伝統生活、習慣、民族歴史などについてもっと知りたいという気持ちに繋がっているだろう。そして、民族文化を保護する、伝承するという責任感、使命感に関連していくだろう。

以上を踏まえて、モンゴル民族伝統音楽の今後の発展のためには、内モンゴル自治区のほかの総合大学の音楽部や高等専門学校などにおいても、内モンゴル芸術学院の音楽教育活動をモデルにして改革を進めていくべきであると考えられる。

本研究では、内モンゴル芸術学院モンゴル民歌伝承クラスの伝統音楽伝承の実態を明らかにし、また、インタビュー調査やアンケート調査によって、モンゴル伝統音楽とモンゴル民族アイデンティティとの相関性について検証することができた。

今後の課題として、内モンゴル芸術学院の「Anda伝承クラス」、「ウランムチ伝承クラス」など、ほかのモンゴル伝統音楽伝承クラスを対象に研究を行い、その伝統音楽伝承の実態も明らかにしたい。

【註】

- 1) 中華人民共和國國務院（2015）『關於加快發展民族教育的決定』，國發46号。
- 2) 薩日娜・烏雲塔娜（2011）「蒙古族傳統音樂在高等藝術教育中的傳承實踐與思考」『民族教育研究』第5期第22卷 總第106期，pp.108-110。
- 3) 姜曉芳（2015）「淺談在音樂院系中蒙古族傳統音樂的傳承方式—以內蒙古藝術學院音樂學院為個案—」『內蒙古師範大學學報 教育科學版』第28卷第11期，pp.168-170。
- 4) 袁炳昌・馮光鈺編（2007）『中國少數民族音樂史（第四章 蒙古族音樂史 烏蘭杰）』京華出版社，pp.156-157。
- 5) 內蒙古藝術學院
<http://www.imac.edu.cn/nyjj.shtml> 2019年6月22日確認。
- 6) 內蒙古藝術學院音樂學部
<http://yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/xyjj.shtml> 2019年6月22日確認。
- 7) 科爾沁民歌（2011級）內蒙古藝術學院
<http://yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180608/2446.shtml> 2019年6月22日確認。
- 8) 阿拉善民歌（2012級）內蒙古藝術學院
yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180608/2447.shtml 2019年6月22日確認。
- 9) 錫林郭樂（2014級）內蒙古藝術學院

<http://yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180808/5407.shtml> 2019年6月22日確認。

10) 鄂爾多斯民歌 内蒙古芸術学院

yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180808/5408.shtml 2019年6月22日確認。

11) 呼倫貝爾民歌 内蒙古芸術学院

<http://yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180808/5409.shtml> 2019年6月22日確認。

【引用文献・参考文献】

呼格吉樂函 (2006) 『蒙古族音楽史』遼寧民族出版社, pp.1-466

姜曉芳 (2015) 「浅談在音楽院系中蒙古族伝統音楽的伝承方式—以内蒙古芸術学院音楽学院為個案—」『内蒙古師範大学学报 教育科学版』第28卷第11期, pp.168-170

薩日娜・烏雲塔娜 (2011) 「蒙古族伝統音楽在高等芸術教育中的伝承实践与思考」『民族教育研究』第5期第22卷 総第106期, pp.108-110

袁炳昌・馮光鈺編 (2007) 『中国少数民族音楽史 (第四章 蒙古族音楽史 烏蘭杰)』京華出版社, pp.116-169

資料

内モンゴル芸術学院教務処 (2018) 『内モンゴル芸術学院本科專業培養方案』

Web 資料

内蒙古芸術学院

<http://www.imac.edu.cn/nyjj.shtml>

内蒙古芸術学院音楽学部

<http://yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/xyjj.shtml>

科爾沁民歌 (2011級) 内蒙古芸術学院

<http://yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180608/2446.shtml>

阿拉善民歌 (2012級) 内蒙古芸術学院

yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180608/2447.shtml

錫林郭樂 (2014級) 内蒙古芸術学院

<http://yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180808/5407.shtml>

鄂爾多斯民歌 内蒙古芸術学院

yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180808/5408.shtml

呼倫貝爾民歌 内蒙古芸術学院

<http://yyxy.imac.edu.cn/html-yyxy/ccb/20180808/5409.shtml>